



稲作情報 第5号

（生育状況、水管理、穂肥、カメムシ対策）

JA夢みなみ（すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区）、県中農林事務所須賀川農業普及所

令和8年6月24日～

令和8年7月22日

1 気象庁発表 東北地方発表 1ヶ月予報（6月20日～7月19日までの見通し）

○天候予報（6月18日発表）によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

○平均気温は平年並か低い見込み、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

2 生育状況

○生育ステージは概ね平年並みです。草丈・葉色は概ね平年並で、茎数は平年よりも多い傾向です（表1）。

○近年は高温の影響で、いずれの品種も生育が平年よりも数日程度早まっている傾向にあるため、

生育状況を注意深く確認しましょう。

表1 生育調査結果（6月19日調査）

品種・場所 移植日	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ 須賀川市 長沼 5/3	本年	42.0	690	38.4
	前年	45.3	610	38.6
	平年	44.7	616	41.7
	平年差・比	94	112	-3.3
コシヒカリ 須賀川市 岩瀬 5/2	本年	43.8	539	39.1
	前年	49.4	491	40.6
	平年	42.5	374	41.2
	平年差・比	103	144	-2.1
コシヒカリ 石川町 5/1	本年	44.9	745	39.3
	前年	49.4	610	41.6
	平年	45.5	526	38.8
	平年差・比	99	142	0.5

※平年値は前5カ年の平均値

表2 生育ステージの目安

（農業総合センター（郡山市）、5/15 移植）

品種	年次	幼穂形成始期	出穂期
		幼穂長1～2mm	50%の穂が出穂
コシヒカリ	2025	7/16	8/7
	平年	7/19	8/9
ひとめぼれ	2025	7/8	7/29
	平年	7/12	8/2
天のつば	2025	7/11	8/2
	平年	7/12	8/4

※平年値は2020～2024年の5カ年の平均値

3 中干しから出穂期までの水管理

○表3を目安に目標茎数に到達したら、中干しを始めましょう。

○表2を目安に幼穂形成始期までには中干しを終わらせましょう。

○中干し終了の目安は、田の土の表面に幅1cmくらいの亀裂が入った頃です。

○溝切りをすると、中干しの効果が高くなります（中干し以降の水管理が容易・根張り向上・増収効果等）。

○中干し後に湛水状態を続けると、根腐れを起こすため、土を湿らす程度の走り水とし、3～5日かけて間断かんがいに移行しましょう（図1）。

○幼穂形成始期以降に17℃以下の低温時には、幼穂形成始期（出穂の25～20日前）では幼穂の高さまで、減数分裂期（出穂の15～7日前）ではできる限りの深水管理とし、幼穂を保護してください。

表3 中干し開始の1株あたり茎数の目安

目標茎数（本/m ² ）	400			450		
品種	コシヒカリ等			ひとめぼれ等		
坪あたり株数（株）	60	50	45	60	50	45
1株あたり茎数（本）	22	26	27	25	30	33

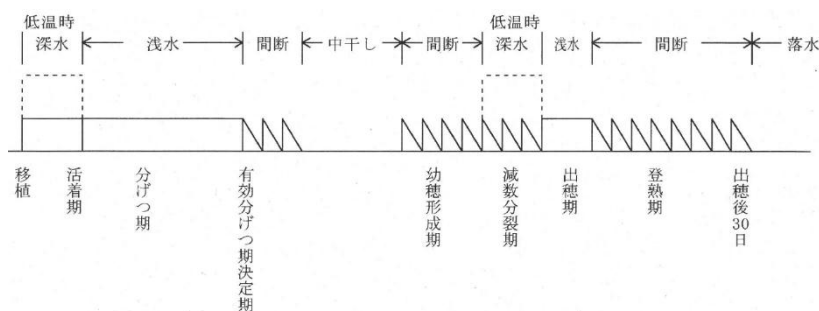


図1 水管理の流れ

4 穂肥(基肥一発肥料を使っていない場合)

- 幼穂長は出穂までの日数と密接な関係にあります。
- 穂肥を行う時期は幼穂長から判断する必要があります(右図: 幼穂長の調べ方参照)。
- 品種によって、穂肥を行う時期が異なりますので、表4を目安に穂肥を行いましょう。

※基肥一発肥料を使っている場合、追肥は原則行いません。

出穂 10 日前に葉の色が著しく薄い場合のみ、
窒素成分で 1~2 kg/10a の追肥を行いましょう。

表4 幼穂長と出穂までの日数の関係の目安

幼穂長(mm)	出穂前(日)
1	25
2	21
10	18
20	15
80	12

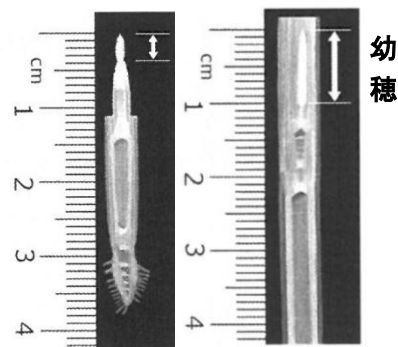
天のつぶ、里山のつぶ、
ひとめぼれ等の穂肥の時期
施用量: 窒素成分で 2kg/10a

コシヒカリの穂肥の時期
施用量: 窒素成分で 1.5~2kg/10a

幼穂長の調べ方

- ①生育の中庸な株から、草丈の最も高い茎を根を付けたまま取る
- ②カッターなどで根元から上へ慎重に切る

※幼穂長に、ばらつきがあるため、
1筆から5本程度見ると良い。



5 ケイ酸の追肥

- ケイ酸施用により、倒伏防止や病害耐性の向上、高温対策(蒸散の活性化により、稲体の温度低下)の効果がある他、受光体勢の改善による登熟歩合の向上や食味向上にも期待できるなど、多くの利点があります。
- ケイ酸資材は出穂 40~30 日前に施用してください。

6 病虫害対策

(1) 斑点米カメムシ類

- 畦畔と水田内のイネ科雑草およびホタルイ等のカヤツリグサ科雑草は、斑点米カメムシ類の発生源となるため、後期除草剤での防除や手取り除草を行いましょう。
- 畦畔草刈りは出穂 10 日前頃(7 月 20 日頃)までに必ず終わらせましよう。
- 出穂 10 日前以降の草刈りは水田内にカメムシを追いつ込むことになるため控えてください。

(2) いもち病

- 置き苗がいもち病菌の発生源となるので、速やかに処分してください。
- 箱処理剤を使用していない水田ではいもち病が発生するリスクが高まるので、オリゼメート粒剤等の予防剤の散布を検討してください。
- 葉いもちの発生が認められる場合は、穂いもちへの伸展を防ぐため、早急にブラシフロアブル等の茎葉散布剤による防除を実施してください。

(3) 紋枯病

- 前年の菌核が地表に落下、越冬して第一次伝染源になるため、昨年発生が多かったほ場や風下の畦畔沿いに発生しやすい病害です
- 密植や多肥栽培で発病しやすくなり、被害が大きいと、茎が弱くなるため倒伏のリスクが高まります。
- 高温多湿条件になると、病斑の進展が助長されやすくなるため、注意が必要です。
- 発生が多いほ場では、モンガリット粒剤(3~4kg/10a:出穂 28~14 日前まで)等を散布してください。

7 熱中症に注意!

- のどが渇いていなくても、定期的に水分・塩分をとりましよう。
- 気温が高い時間帯は作業を行わないようにしましよう。
- 体調不良を感じる前に日陰など涼しい場所に避難して体を冷やし、水分と塩分を摂りましよう。

県中農林事務所須賀川農業普及所
電話(0248)-75-2180

ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください
次回の発行予定日は令和8年7月 22 日(水)です。

本資料は、6月 22 日現在の農業登録情報を基に作成しています。農業使用の際は、最新情報を確認願います。